

第 65 期生の皆様、桜の聖母短期大学へのご入学おめでとうございます。

1955 年に開学した本学は、皆様と共に、65 年目の春を迎えています。

聖母マリア、創設者聖マルグリット・ブールジョワと共に、桜の聖母短期大学は、皆様のご入学を心から歓迎しています。

まず、新入生の皆様が、桜の聖母短期大学で学ぶことを選択して下さったことに、心から感謝します。先の震災以来、多くの若い方々が福島を去る中、皆様は、ここで学ぼうと決意して下さいました。震災から 8 年がたち、この福島で学校を続けられるのは、多くの選択肢の中から、桜の聖母短期大学を皆様が選んで下さったおかげです。本当に、ありがとうございます。

皆様は、「平成」から「令和」という新しい元号が誕生する年に、ご入学されました。この日本の元号制度は、飛鳥時代から 1300 年を超える歴史を持ち、世界で唯一残った制度として、日本文化に定着してきたそうです。皆様は、平成 31 年から令和 2 年にかけて、この桜の聖母短期大学に在学されることとなります。と同時に、2019 年度の入学生でもあります。この 2019 年には、ラテン語の AD という記号がついています。皆様が歴史で学ばれたように、BC というのは Befor Christ キリストの生誕前、の略であり、2019 年の前に着く AD は、ラテン語で「キリストの年に」という意味です。ですから、AD. 2019 年は、キリストの生誕からおよそ 2000 年以上の歴史があるということを示しています。

皆様は、キリストの年の 2019 年に、桜の聖母短期大学にご入学されということになります。

皆様が、この桜の聖母短期大学を選んで下さったことを感謝すると同時に、皆様が 2 年後に、この学び舎を巣立つとき、皆様がこの学校を選んだのではなく、皆様は選ばれて、桜の聖母短期大学に来たことを実感されるでしょう。それは、聖母マリアが、そして、本学の創立者聖マリグリット・ブールジョワがそうであったように、です。

短大の正面玄関ホールには、先ほど朗読された聖書の場面が、世界に一つしかない美しいステンドグラスとして、描かれています。そこに描かれているのは、イエス・キリストを身ごもっている聖母マリアが、山路を越えて、遠い親戚のエリサベトをご訪問する場面です。この「ご訪問の聖母マリア」は、桜の聖母短期大学にとって、最も大切にしている「建学の精神」を表わしたシンボルです。

聖母マリアは、たぶん 10 代でしたから、皆様と同じ年ごろの女性でした。

赤ちゃんを授かり妊娠していました。自分も妊娠して、たいへんであったにもかかわらず、たぶん 40 代くらいの親戚のエリサベトが高齢で妊娠したと聞き、心配して、遠く離れた山里までお見舞いに行きました。そして、2 人が出会った場面、この聖書の場面が先ほど朗読され、さらに、短期大学の正面玄関にある美しいステンドグラスに描かれています。

そこに描かれた「ご訪問の聖母マリア」の精神、それは、心配な方がいたら、妊娠している我が身を省みず、ご訪問する、愛と奉仕に生きる聖母マリアの精神です。

この「ご訪問の聖母マリア」の精神のもと、桜の聖母短期大学の設置母体である修道会が創設されました。

およそ 360 年前、聖マルグリット・ブールジョワという一人の修道女が、フランスから、大西洋を船で 2, 3 か月もかけて、未開地のカナダに、出かけて行き、多くの子どもたちや大人たちに教育を授けました。聖マルグリット・ブールジョワの設立した修道会は、フランス語で「コング

レガシオン・ド・ノートルダム」日本語に訳すと「聖母マリアの修道会」といいます。この修道会は、未開地だったカナダの発展に大きく貢献しました。聖マルグリット・ブールジョワは、カナダの方なら誰でも知っているシスターであり、聖人であり、カナダでは建国の母として敬愛されています。そして、何よりも、優れた教師でした。

カナダの建国に大きな貢献をした聖マルグリット・ブールジョワの修道会が、1932年、今から87年前、5人のシスター達を日本に派遣して下さいました。それが、東京でも、仙台でもなく、この私たちの街、福島市に、です。これも奇跡です。

5人のシスター達は、福島市に修道院を開設され、まず、幼稚園を、そしてその子たちが進学する小学校を、中学校を、高等学校を次々と開設されました。そして、その高校生たちに高等教育を受けさせたいという願いから、1955年に開設された学校が、この桜の聖母短期大学です。

フランスから派遣された聖マルグリット・ブールジョワが、カナダで愛と奉仕に生きたように、カナダの修道会から派遣されたシスター達も、福島の子どもたちや大人たちのために、愛と奉仕に生きて下さいました。その歴史と伝統によって、今日、私たちは、65期生の皆様をお迎えする事ができるのです。

新入生の皆様、覚えていて下さい。

桜の聖母短期大学の教職員は、いつも、必要とされているところにはどこにでもいく、本学の「建学の精神」に謳われている「愛と奉仕に生きる」聖母マリアや聖マルグリット・ブールジョワのようでありたいと努めています。

そして、2年間で皆様を、思いやりと行動力のある女性、compassionのある smart woman「愛と奉仕に生きる良き社会人」として社会に送り出そうと、私たちは、最善を尽くす事を、新入生の皆様にお誓いします。

そのために、様々な授業や学校行事を準備しています。本学の授業は、教室でしっかりと知識や技術、そして豊かな教養を身につけ、「ご訪問の聖母マリア」のように、創設者聖マルグリット・ブールジョワのように、様々な地域やコミュニティ、海外にも出かけていきます。教室と同じく、地域や世界が、皆様の学びの場です。このような学びを通して、皆様は、1万人を超える卒業生がそうであるように、必ず「愛と奉仕に生きる良き社会人」として、美しく成長されます。

保護者の皆様、高いところから、たいへん恐縮です。

お嬢様の選択を尊重して頂き、多大なるご支援を賜ります保護者の皆様に、深く感謝します。教職員一同、お嬢様お一人ひとりを大切にご支援させて頂くことをお誓い申し上げます。

また、ご多忙な中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、兼任教員の皆様にも御礼申し上げます。桜の聖母短期大学のこの歴史と伝統を大切に継承し、さらにより良い教育活動をしていくことを、お誓い申し上げます。

さあ、65期生である新入生の皆様、2年間は、瞬く間に過ぎ去ります。さらに短く感じられるほど充実させましょう。あなたの夢をここで実現し、あなたが、あなたのなりたい自分になり、愛と奉仕に生きる良き社会人として母校を巣立つ日まで、私たち教職員一同は、いつも皆様の傍らにいて支援させて頂きます。

65期生の皆様とそのご家族に、そしてこの桜の聖母短期大学に集うお一人おひとりに、主イエス・キリストと聖母マリア、聖マルグリット・ブールジョワの豊かな祝福をお祈りし、式辞いたします。